

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年5月28日				
放課後等デイサービスきぼう						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		部屋が多いので、その日の状況に応じて個室で支援を行うこともできる	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		全員有資格者なので、専門知識を持っている	全員有資格者（保育士、児童指導員）だが、もっと職員が多いと、より良い支援ができる
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		一日の流れを時間と活動内容で色を変えて大きく掲示している。外は、スロープがついているので、車いすの方の利用も可能	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		一人一人が落ち着いて過ごせるようソファやクッションなどもバランス良く置かれていると思う	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		一人になりたい時は、個室を使用している	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		定期的に全員で行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		自己評価表以外に自由記載アンケートも毎年行い、職員全員で共有し、改善点も話し合っている。また、法人HPで公表している	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		意見箱の設置、意見の言いやすい環境が整っている。毎日昼礼で子供達の様子について話し合い把握したり、月に一度の内部研修で意見を述べたりする機会がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		研修情報の共有、受講の際のシフト調整等、研修に参加しやすい体制が作られている	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、保護者の方全員に配布し、法人HPで公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメントを行い、ニーズや課題も反映させている	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員全員で会議を開いている	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		必ず全員で共有し、日々の昼礼時、支援方法を確認している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		職員全員で確認している	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		全ての提供すべき支援を計画に取り入れ、5領域に基づいた支援方法を作成している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		管理者以外の職員もイベントや外出活動等意見を出してくれている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		値域のイベントやおやつの買い物など色々な活動を提供している。室内では、おやつ作り、調理活動、実験、室内運動と様々な活動を提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		一人一人の支援内容に応じて、作成している	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日、支援前に職員全員で、確認している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		記録を記入し、その後、共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日記録を取り、支援の内容を振り返り、改善等も行っている。大事な所は赤線を引いたり付箋を貼ったりして後で見返せるよう個人別にファイリングしてある。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年ごとにモニタリングを行い、見直しがあれば行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6		全てにおいて活動に取り入れている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		好きな物を買ったり食べたり等、自分で選ぶ機会が多くある	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者が会議に参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		相談支援事業所、学校、必要があれば医師とも連携を図っている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校との情報共有は、その日子供達がどのような様子だったか送迎時に担任の先生に聞くなど細かく行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			保育所などとはあまり情報共有ができていないので、これから改善していく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		相談支援事業所を介して伝えてもらっている	直接情報提供ができるように努める
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		近隣の法人の心理士の方にアドバイスをもらっています	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		毎月バラスポーツ教室に参加し、色々な子供達と交流している	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		山武市自立支援協議会に毎回参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		毎日送迎時にその日の様子を伝えている	
保護者への説明	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		匝瑳市自立支援協議会で行うペアレントトレーニングのチラシをお渡ししています	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		毎年面談を行い、意見を尊重聞き、計画に反映させている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		契約時に支援内容を伝えている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時に悩みなどを伺い、アドバイスを伝えている。自分はまだできていないので、これから対応できるようにしたい	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	3	保護者の方も参加できるイベントを開催し、保護者同士が交流する場となるように工夫している	より沢山の保護者の方が参加できるように機会を設ける
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情があった際は、迅速に対応している	

等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		ほぼ毎日、日々の活動の様子をインスタで投稿している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		写真等掲載する際は、承諾書を頂いている	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		個人個人に合った配慮を行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		音楽コンサートの際、地域住民も参加し、つながりが持っていた。近所の商店に買い物に行ったり、地域を散歩したり、関わりを持ち、開かれた事業運営を心掛けている。また、庭にベンチを設置し、近所の人がいいつでもくつろげる空間を設けている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルを配布し、定期的に訓練を行っている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		策定し、定期的に訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		保護者の方と、連絡を取っている	一覧表などがあると分かりやすく、有事の際にも持ち出しやすい
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	保護者の方の情報を元に対応している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		研修や訓練を行っている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画の内容を配布している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事業の共有のスピードが早いので、スタッフ間での共通認識がもてるのが早い	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎年内部研修を定期的に行い、また千葉県虐待防止研修に参加し、職員への伝達研修も行っている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		対象の利用者が今はいませんが、以前肢体不自由の利用者さんがいた際は、座位保持を使用する為、計画に必ず記載し、承諾を得ていた	